

と協
局建
整備
宮
建設業をより身近に
中学生が現場作業を体験

東北地方整備局仙台河川国道事務所と宮城県建設業協会(佐藤博俊会長)

は11月28日、仙台湾南部海岸災害復旧工事・深沼第2復旧工事(仙台市若林区荒浜地先)の現場で、仙台市立郡山中学校の生徒による土木現場の作業体験を開催した。建設業界の担い手不足解消に向け、将来の進路選択の一助として建設業に興味を持つてもらおうと計画したもので、11月13日に引き続き今回が2回目。

で、仙台河川国道事務所
で職場体験を行った。
仙台湾南部海岸復旧工事は、東日本大震災で被災した約29km²の海岸堤防をより粘り強い構造へと改築するもの。深沼第2復旧工事は熱海建設が施工を担当している。
当日は初めに測量機械の使い方を学びながら丁張の設置を体験。3人が交代で位置出しをし、最後は3人で協力して丁張を制作した。その後はラジコンヘリによる画像計測の様子を体験。モニターに映しだされたマルチコプターの撮影映像や、映像の3次元情報を基にした図面作成の説明

を3人は興味深げに見ていた。
体験を終えた3人は、「最初は国土交通省の仕事がどんなものかわからなかったが、今回の作業体験やパトロール体験を通じて自分の生活に身近なものだと思った」と話し、中でも将来は建設業に就くのが夢だと言う小林くんは「色々な技術を体験できて楽しかった。建設業に就きたいという思いが強まった」と満足気だった。
3人に説明を行った岸川季史監理技術者は「きょうの体験はどれもなかなか経験できないことだと思う。これからも色々な体験をして将来の職業選択の幅を広げてもらいたい」と期待を寄せた。



3人で協力して丁張製作を体験

測量機械の説明を受ける小林くん